



第17回企画展 制服にみる海軍の歴史

— 明治から昭和へ80年の流れ —

■休館日

火曜日(4/19・4/26・5/10・5/17・5/24)

■入館料

一般(大学生以上).....400円(800円)

高校生.....300円(500円)

小・中学生.....200円(300円)

*()内料金は常設展示とのセット料金

■主催

呉市海事歴史科学館

■協力

海上自衛隊第1術科学校教育参考館

呉市入船山記念館

株式会社並木書房

有限会社宮地洋服店

高田帽子店

柳生悦子

秋谷茂行

■願縁提供

株式会社 大晶

■問い合わせ

〒737-0029 広島県呉市宝町5番20号

呉市海事歴史科学館(大和ミュージアム)

Tel:(0823)25-3017 Fax:(0823)23-7400

<http://www.yamato-museum.com/>

【日本海軍軍装図鑑】 昭和2-13年 海軍中将正装 ©柳生悦子

平成23年4月13日(水) ▶ 5月30日(月)

大和ミュージアム 1階大和ホール(AM9:00~PM6:00)

第17回企画展 制服にみる海軍の歴史

—明治から昭和へ80年の流れ—

ごあいさつ

本企画展は海軍創設とともに定められた海軍服の変遷のなかに海軍の歴史を探ろうとするものです。

明治に生まれた日本海軍は急激な成長とともに世界有数の海軍となりました。短期間での成長に伴い目まぐるしく変化する制度のなかに「服制」もありました。

展示では、明治3年11月の最初の「海軍服制」が公布されて以来、昭和19年8月の「臨時海軍第三種軍装令」に至るまで様々な研究、開発が行われた「海軍の服制」について紹介いたします。

また、長年にわたり海軍の服装について調査・研究を続けられ成果として刊行された「日本海軍軍装図鑑」の著者 柳生悦子氏より図鑑掲載の原画を御寄贈いただきました。これを記念してその全容をご紹介します。

呉市海事歴史科学館(大和ミュージアム)館長 戸高一成

柳生悦子(やぎゅう・えつこ)

昭和4年生まれ、東京・麻布で育つ。21年東京藝術大学図案科入学。在学中より映画美術家・松山崇に師事。28年より映画・演劇の衣装デザインに携わり現在まで100作品を超える。44年公開の「日本海大海戦」で衣装デザインを担当したのがきっかけで、軍服史、とくに日本海軍服に関心をもち、以来、今日まで文献・資料を集め、海軍関係者に取材しながら調査・研究をつづける。最近ではNHKスペシャルドラマ「坂の上の雲」の軍服考証なども担当している。

本企画展に展示の人物カラーイラストは、35年にも及ぶ研究の成果をまとめた「日本海軍軍装図鑑-幕末・明治から太平洋戦争まで-」に掲載されている原画である。

アクセス

電車 JR呉駅から徒歩約5分

バス 呉市営バス宝町中央循環線
「ゆめタウン大和ミュージアム前」
下車徒歩約1分

フェリー 呉中央桟橋から徒歩約1分

自家用車 クレアライン呉ICから約5分

駐車場 ●第1専用駐車場/65台
1時間100円(24時間営業)
●第2専用駐車場/220台
1時間100円(8:00~24:00)



呉市海事歴史科学館

大和ミュージアム

〒737-0029 広島県呉市宝町5-20
Tel: (0823)25-3017/Fax: (0823)23-7400
http://www.yamato-museum.com/

主な展示資料

●「日本海軍軍装図鑑」原画より



明治3年11月-4年12月
海軍中尉 略衣(左)
海軍少佐 正衣(右)



明治17年-29年
准士官 短外套(左)
明治37年-大正8年
軍医官 二重外套(右)



大正15年
東郷元帥 正装(左)
昭和2年-13年
海軍中尉 夏季礼装(右)



昭和17年制文官従軍服
徒手冬用(左)
高等官夏用(中央)
昭和18年制海軍工廠
工具作業服(右)



昭和20年
上下分離式航空服と
味方識別標式(左)
戦闘機搭乗員の中尉(右)



昭和20年
「大和」機銃群指揮官 少尉(左)
「大和」下士官(右)

海軍大将 野村吉三郎関係資料



海軍大将 正装



勲一等旭日桐花大綬章

萩谷コレクション



第一種略帽
(准士官以上)



陸軍帽
(陸戦隊被服)